

紹介

世界食糧農業問題展望 に關する報告書

「世界食糧農業問題展望に關する報告書」は、本年八月二十五日ジュネーブにて開催された國際連合食糧農業機構（FAO）第三回年次總會に資料として提出するために、加盟十九ヶ國政府の報告と、商品別農産物供給狀況及び特殊問題等について、三十部門以上にわたる特別調査に基いて書かれたものである。要旨は次の通りである。

生理的發育を十分伸ばし、勤勞意欲を十分發揮するに足る榮養は、すべての階級に行亘らねばならない。我々は飢餓と貧困の排除の戰いに、今まで敗北を喫したからといつて敗北主義を奉ずべきではない。それは文明の敗北でもあるからだ。

さて、世界農業情勢を展望するに、食糧のみならず木材その他の林産品、纖維、種子、肥料、輸送力、農産供給施設等の不足状態は、歐洲アジアの大部分を通じて今年中繼續するだらう。

歐洲の國內食糧供給は復興途上にあつたが、昨冬の惡天候に阻害され、これがため西部及び中部歐洲の食事情況は今年度更に低下するだらう。アジアもまた輸入が増加しない限り、現在の低水準に留まるものと見られる。

一九四六—七年度に於ける食糧不足地域の穀物輸入額は二千六百萬噸であつたが、これに比し歐洲、北アフリカ及びアジアに對する一九四七—八年度最小輸入必要額は三千四百萬乃至三千八百萬噸と豫想される。この豫想ではパン配給量の増加、家畜飼料の増加、或いは勞働力高揚と云つたことは何等期待し得ない。この需要に對し餘剩諸國から輸出に振り向けられる穀物供給高は暫定的に三千萬乃至三千四百萬噸と豫想されて居る。主として馬鈴薯、砂糖、脂肪等穀物以外の一部食糧供給が幾分増加するにも拘わらず、情勢は依然として暗い。アンラの事業停止や、外國爲替に關する幾多の難問題は、購買力の弱い諸國の問題を惡化して居る。かういふ現状の改善が少しでも遅延するならば、勤勞意欲を更に害い、復興を阻害し、長期的榮養不足から肉體を傷け、且つ又社會不安に拍車をかけることになる。

次に一九四七—八年度における農産物の各部類について見れば、

一、穀類 北半球は昨年よりも減收の見込である。この原因は、歐洲に於ける今冬の作物枯死、印度に於ける饑饉腐敗、中國に於ける旱魃、米國に於ける大雨等である。たゞソ連及びその他一部の東歐諸國が昨年よりも著しく増收するものと豫想され

る。一方、南半球の穀物及び米作收穫高を豫想することは時期尙早であるが、近年の早魃年度の水準を超過するものと思われ

る。

- 一、馬鈴薯 普通の天候に恵まれて、歐洲の馬鈴薯は作付面積が増加し昨年よりも更に増収を見よう。

- 一、砂糖 供給高は恐らく昨年よりも僅かに増加するのみであらう。この理由は、歐洲、ソ連、フィリッピンの生産増加にも拘わらず、キューバ糖は減産が豫想され、彼我殆ど相殺されるからである。

- 一、油脂 引續き緩慢ながら着實な生産増加が期待される。

- 一、畜産品 飼料は依然として世界的に不足して居るため、肉類、ミルクの供給高は恐らく僅かに増加するのみであらう。歐洲大陸の肉類供給高は戦前の六〇%が豫想される。ミルク、バターは昨年と變化なく戦前の三分の二、南半球では多少の増加が期待される。北アメリカの供給高は戦前をはるかに超ゆるものと豫想される。

- 一、魚類 終戦以來漸次増加して居る。しかし未だ戦前水準には達しない。今後の増加が期待される。

- 一、繊維及び纖維製品 棉花、羊毛、亚麻、生絲及び人絹生産高は前年よりも僅かに増加するものと期待される。しかし尙ほ戦前水準を相當下廻るであらう。大量のストック繰越高は生産停滞を充分カバーするだろう。

- 一、林産品 引續き木材不足のため、多くの復興事業、わけても

建築は遲延するだろう。パルプ及び紙生産高は戦前を上廻るであらうが、これらの生産、消費は共に北アメリカが大部分を占めるであらう。

- 一、ゴム 東南アジアの天然ゴム生産復興が殊に顯著であるため生産過剰の問題が起りかけている。現在の天然ゴム及び人造ゴム生産高は既にゴム消費高を超過している。

さて、明年度の増収は、今後六ヶ月内に必要地域に對し肥料、農具等を供給することにより達成され得よう。これを實現するため先づ第一に爲さるべき措置は、主たる不足地域のために各政府からなる國際委員會を設置することである。この委員會は各國の要求量をまとめて、供給諸國と輸出可能力とについて懇談するのである。世界人口は毎年千五百萬乃至二千萬人増加しつつありかつ又食糧需要は各國とも戦前より増加して居るために、食糧供給を全く戦前水準に回復することは出来ない。

短期的の不足に對する解決は生産増加をはかることである。これを解決する方法としてアジアに於いて反當増収をはかるため、農業の近代化を行うことが必要である。アジアの根本的障害は農業人口の過剰であり、従つて若し農業方法が改善されるときには、農業餘剰人口を轉職させることが必要である。

農業方法を改善し再出發するための長期的計畫は歐洲に於いてもまた必要である。ラテンアメリカ、アフリカの人口稀薄地域及び未開地の開發についても強く勸奨する。

現在及び將來に於いて、尨大な需要を滿たすため増産をはかる

上に一の蹶點となるのは生産過剰の懸念である。それ故に生産増強のためのいかなる國際的計畫も、市場の擴大と適正價格を或る程度保證しなければならぬ。

國際會議は緊急の食糧不足問題、長期の食糧増産問題、過剰農産物問題等のあらゆる部面について討議するものである。この目的を達成するために、食糧農業林業及び漁業における年間の現狀を報告したのである。また國際會議は食糧農業機構の十八ヶ國理事會設置を考慮して居る。この理事會は年間に於いて隨時情勢の變化を調査し、各國政府に對し必要な調整を勧告することになる。

東歐諸國の農民問題

這次大戰以來、フランスムより解放せられた東歐諸國の農民の地位身分に重大な變化が起つた。これら諸國に現われた農業改革は其の一の明白な説明である。これらの改革の政治的經濟的結果は如何であつたか。民主化發展の途をとつた諸國の農民の役割は如何か。今日の農民の地位を戦前のそれより區別するものは何か。かういふ前書でコンスタンチノフスキー氏は大要次のように説明している。

I

ユーゴスラヴィア、ルーマニア及びブルガリアの戦前の歴史は東歐及び南東歐の農業諸國の典型的且つ特異なものであつた。

これら諸國の過去における農民の政治的役割は、農民が經濟的社會的に遅れていたという事實によつて専ら決定される。ユーゴスラヴィアでは戦前の統計によると、有業人口の七八%以上が農業者であり、ルーマニアでは七八・二%、ブルガリアでは七九・八%が農業者であつた。これら諸國の農業の特色は、小農が壓倒的で従つて封建制度が強く遺つて居るということである。戦前、ユーゴスラヴィアの農民の七〇%、ルーマニアの農民の七四・九%、ブルガリアの農民の六三・一%は五ヘクタール未満の農地保有者であつた。

ルーマニアでは一九一八年乃至一九二一年の農業改革に依つて大地主は若干弱められたけれども、それでもブルガリアやユーゴスラヴィアと同様大きな勢力をもつて居た。彼等は反動的非民主的政策の支持者であつた。朽廢した農業關係はこれら諸國の經濟的發展を阻碍した。このことは惹いて外國資本をして東歐諸國の經濟的支配權獲得を容易にした。

これらは南東歐諸國に共通の性格であり、其の後退性の現れであつた。農民は困窮と缺乏で消磨せられ國家の政策に何等の影響も及ぼすことが出来なかつた。東歐農民政黨の大半は内部相剋に災いされ、黨員の大部分は小農であり、其の指導權は富裕な資本家的分子によつて掌握され、政黨の政治活動は常に指導權を握る小數分子の利益中心に爲された。このことは兩大戦期間における所謂農民政府の破産を意味し、勞働運動に對して續行した執拗な闘争を説明し、従つて又所謂農民指導者がフランスムに屈服した。